



AppSuite の自動計算活用

使い方事例
アプリ作成のヒント (V5.5)

■ 基本知識	
■ 自動計算部品の基本	P3
■ 計算式の入力画面	P4
■ 自動計算に使用できる部品	P5
■ 【参考】記号について	P6
■ 【参考】関数について	P7
■ 【参考】関数内のフォーマット表記	P11
■ 【参考】関数内のタイムゾーン表記	P12
■ 入力値の複写や変更	
■ 値のコピー	P13
■ リレーション後の複写部品の編集を制限する	P14
■ 入力した文字に任意の文字列をくっつける	P16
■ 二つの部品の値を一つの部品で表示する	P17
■ 文字部品と数値部品をくっつける	P18
■ 数値の計算	
■ 金額の合計を計算する	P19
■ ラジオボタン等で選択したスコアの合計を算出する	P21
■ 条件によるフラグ管理	
■ 入力内容によってステータスを変化させる	P23
■ 日付の部品への入力の有無でフラグ管理を行う	P24
■ 年齢、日付の制御	
■ 入力した日付に特定の日数、月数、年数を足す	P26
■ 特定の日付を基準に1週間分の日付を自動算出する	P27
■ 数字で入力した年齢を集計用に部類分けされた形式に変換する	P29
■ 生年月日の計算を行う	P31
■ 生年月日から学年を割り出す	P33
■ 表部品での活用	
■ 表部品内のレコードの特定項目のみ足し算する	P40
■ 表部品内の最新の日付を出力する	P41
■ 表部品内の特定の条件に一致する最新の日付を抽出する	P43

自動計算部品の基本

自動計算を行うための計算式の入力、編集を行います。

部品の設定

基本

部品名
自動計算部品

タイプ
自動計算

計算式
[編集](#)

計算結果の表示形式

文字
数値 - 補助
日付
日時
時間

前 後

参照画面で桁区切り(,)を使用する

配置
タイトル
スタイル
複写の設定

計算式で指定した計算結果の表示形式を選択できます。

- ・文字
- ・数値
- ・日付
- ・日時
- ・時間

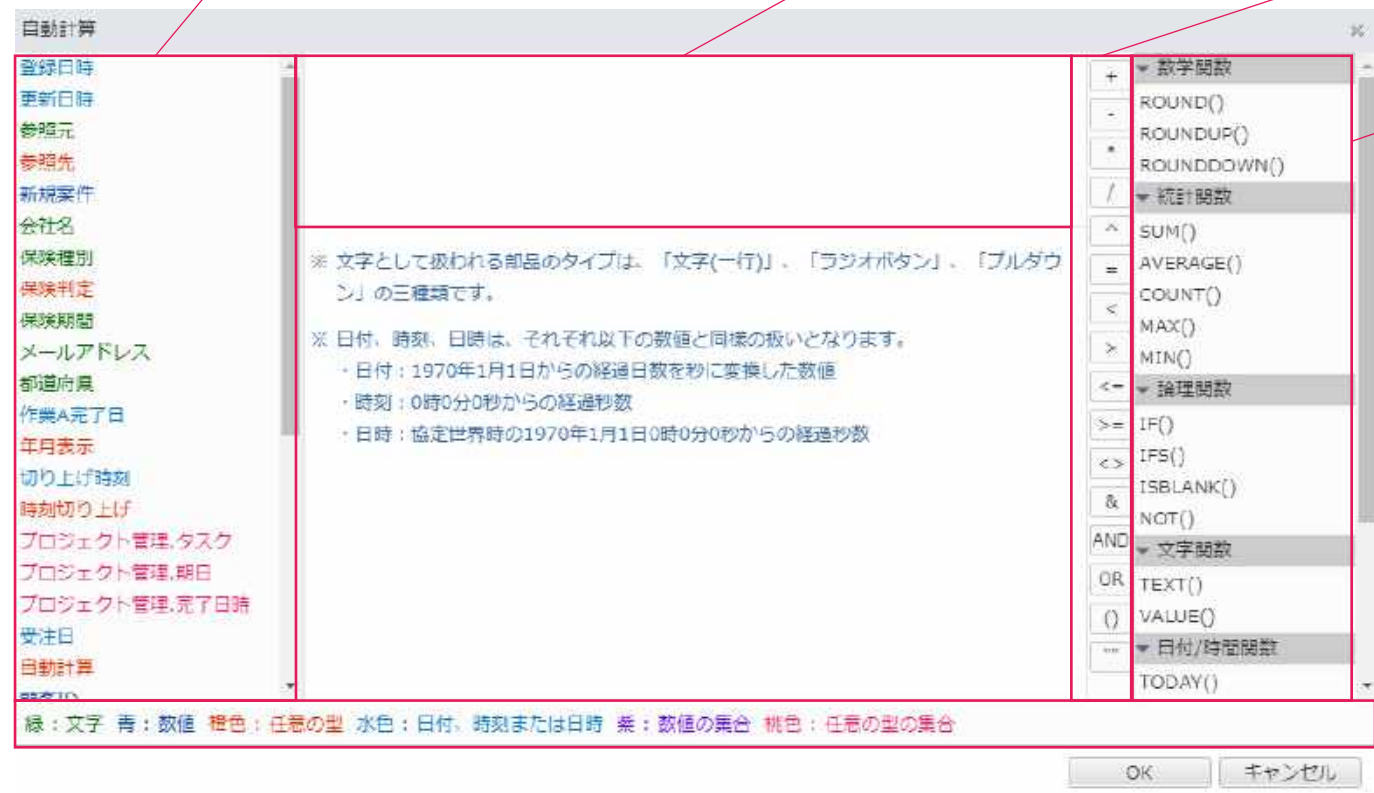
の中から選択を行います。

計算式の入力画面

アプリ内で使用されている部品一覧です。クリックすることで計算式に部品名を挿入もできます。

計算式の入力スペースです。式の書き始めに = は不要です。

計算式に使用できる記号一覧です。クリックすることでも計算式に記号を挿入もできます。



計算式に使用できる関数一覧です。クリックすることでも計算式に関数を挿入もできます。

部品タイプの色分けの一覧です。部品一覧と計算式内の部品は、部品タイプで色分けされて表示されます。

※計算式入力スペースに直接部品名や記号、関数を入力することもできます。

自動計算に使用できる部品

文字(一行)	○	文字
文字(複数行)	×	
チェックボックス	×	
ラジオボタン	○	文字
プルダウン	○	文字
リストボックス	×	
数値	○	数値
日付	○	日付、時刻または日時
時刻	○	日付、時刻または日時
日時	○	日付、時刻または日時
添付ファイル	×	
自動計算	○	任意の型
リッチテキスト	×	
ユーザー選択	×	
組織選択	×	
表部品	表部品内の部品に依る	数値の集合・任意の型の集合
参照データ一覧	参照データ一覧部品内の部品に依る	数値の集合・任意の型の集合
参照部品	○	文字・数値・日付、時刻または日時
[データID]	×	
[登録日時]/[更新日時]	○	日付、時刻または日時
[登録者]/[更新者]	×	

【参考】記号について

記号	記述	意味	使用用途
+	左辺+右辺 ※左辺、右辺は数値	左辺と右辺を足す	数値の足し算を行う
-	左辺-右辺 ※左辺、右辺は数値、日付、時刻または日時	左辺から右辺を引く	数値、日付、時刻または日時の引き算を行う
*	左辺*右辺 ※左辺、右辺は数値	左辺に右辺を掛ける	数値の掛け算を行う
/	左辺/右辺 ※左辺、右辺は数値	左辺から右辺を割る	数値の割り算を行う
^	左辺^右辺 ※左辺、右辺は数値	右辺を指数として左辺のべき乗を計算する	指数計算を行う
=	左辺=右辺 ※左辺、右辺は数値、日付、時刻または日時	左辺と右辺の値が同じか判定する	関数の条件式として使用
<	左辺<右辺 ※左辺、右辺は数値、日付、時刻または日時	左辺が右辺より小さい値か判定する	関数の条件式として使用
>	左辺>右辺 ※左辺、右辺は数値、日付、時刻または日時	左辺が右辺より大きい値か判定する	関数の条件式として使用
<=	左辺<=右辺 ※左辺、右辺は数値、日付、時刻または日時	左辺が右辺の値以下か判定する	関数の条件式として使用
>=	左辺>=右辺 ※左辺、右辺は数値、日付、時刻または日時	左辺が右辺の値以上か判定する	関数の条件式として使用
<>	左辺<>右辺 ※左辺、右辺は数値、日付、時刻または日時	左辺と右辺の値が異なるか判定します	関数の条件式として使用
&	左辺&右辺 ※左辺、右辺は文字	左辺と右辺の値を結合する	2つ以上の部品や任意の文字を結合して出力させる
AND	左辺AND右辺 ※左辺、右辺は数値、または計算式	左辺かつ右辺が成立するか判定する	関数の条件式として使用
OR	左辺OR右辺 ※左辺、右辺は数値、または計算式	左辺または右辺が成立するか判定する	関数の条件式として使用
()	(計算式)	()で囲んだ計算式はその外側よりも先に計算する	計算順序の制御
""	"任意の文字列"	""で囲んだ文字列は文字として扱う	計算式内に文字を入力する

【参考】関数について (1)

関数	記述	意味	使用用途
数学関数			
ROUND()	ROUND(○○,桁数) ※○○ = 数値や計算式	○○を少数点以下「桁数」桁で四捨五入	例) 端数の削除、時間の重み付け、年齢区分の切り分け
ROUNDUP()	ROUNDUP(○○,桁数) ※○○ = 数値や計算式	○○を少数点以下「桁数」桁で切り上げ	例) 端数の削除、時間の重み付け、年齢区分の切り分け
ROUNDDOWN()	ROUNDDOWN(○○,桁数) ※○○ = 数値や計算式	○○を少数点以下「桁数」桁で切り捨て	例) 端数の削除、時間の重み付け、年齢区分の切り分け
統計関数1			
SUM()	SUM(○○, ○○, . . .) ※○○ = 数値や計算式、 数値の集合	○○の合計を求める	例) 金額の合計を算出、合計スコアを算出
SUMIF()	SUMIF(○○,条件) ※○○ = 数値の集合	表部品の中の「条件」に一致する○○の 合計を求める	例) 表部品中のプルダウンにて、ステータスが「○○」に なっている行のみの合計金額を算出
AVERAGE()	AVERAGE(○○, ○○, . . .) ※○○ = 数値や計算式、 数値の集合	○○の平均を求める	例) 平均金額を求める、平均年齢を算出
AVERAGEIF()	AVERAGEIF(○○,条件) ※○○ = 数値の集合	表部品の中の「条件」に一致する○○の 平均を求める	例) 表部品中のプルダウンにて、ステータスが「○○」に なっている行のみの平均金額を算出
COUNT()	COUNT(○○, ○○, . . .) ※○○ = 指定なし	空欄を除く () のデータの個数を求める	例) 表部品内のレコード数を算出
COUNTIF()	COUNTIF(○○,条件) ※○○ = 任意の型の集合 数値の集合	表部品の中の「条件」に一致する○○の データの個数を求める	例) 表部品中のプルダウンにて、ステータスが「○○」の レコード数のみを算出

【参考】関数について（2）

関数	記述	意味	使用用途
統計関数2			
MAX()	MAX(○○,○○,・・・) ※○○ = 数値や日時関係、 計算式、 数値日時の集合	() のデータの中の最大値を求める	例) 表部品内のレコードから最新の日付を抽出する
MAXIF()	MAXIF(○○,条件) ※○○ = 数値日時の集合	表部品の中の「条件」に一致する○○の中での最大値を求める	例) 表部品中のプルダウンにて、ステータスが「○○」になっている行のみの最新の日付を抽出する
MIN()	MIN(○○,○○,・・・) ※○○ = 数値や日時関係、 計算式、 数値日時の集合	() のデータの中の最小値を求める	例) 表部品内のレコードから初回の日付を抽出する
MINIF()	MINIF(○○,条件) ※○○ = 数値日時の集合	表部品の中の「条件」に一致する○○の中での最小値を求める	例) 表部品中のプルダウンにて、ステータスが「○○」になっている行のみの初回の日付を抽出する

【参考】関数について（3）

関数	記述	意味	使用用途
論理関数			
IF()	IF(条件,真値,偽値) ※条件 = 数値または論理式 真値 = 数値、日時関係、文字または計算式 偽値 = 同上	もし「条件」が真ならば「真値」を実行、偽ならば「偽値」を実行する	例) 数値、日付の値に依るフラグ管理 プルダウン等の選択値に依って表示を変化 表部品の特定レコードの値を抽出
IFS()	IFS(条件,真値,条件,真値,・・・) ※条件 = 数値または論理式 真値 = 数値、日時関係、文字または計算式	もし「条件」が真ならば「真値」を実行、偽ならば次の「条件」を判定し真ならば「真値」を実行、偽ならば次の「条件」を判定し・・・	例) 数値、日付の値に依るフラグ管理 プルダウン等の選択値に依って表示を変化
ISBLANK()	ISBLANK(○○) ※○○ = 数値、日時関係、文字または計算式	○○が空白かどうかを判定する	例) 数値、日付の値に依るフラグ管理 計算式内の部品の空白値によるエラー表示の回避
NOT()	NOT(条件式) ※条件 = 数値または論理式	「条件式」が成立しないことを判断する	例) 数値、日付の値に依るフラグ管理 特定の値以外でのフラグ管理を行う
文字関数			
TEXT()	TEXT(○○) ※○○ = 数値、日時関係、文字または計算式	○○を文字に変換する	例) 数値、日時関係を文字と結合させる 自動計算の結果を文字と結合させる
VALUE()	VALUE(○○) ※○○ = 数値、日時関係、文字または計算式	○○を数値に変換する	例) 年月日を数値として出力する 自動計算の結果を数値として出力する

【参考】関数について（４）

関数	記述	意味	使用用途
日付/時間関数			
TODAY()	TODAY()	自動計算が行われた時の日付を求める	例) 特定の日付から今現在までの日数を計算する
NOW()	NOW()	自動計算が行われた時の日時を求める	例) 現在日時から○時間後の日時を計算する
DATE()	DATE(年,月,日) ※年月日 = 数値	年月日に入力された日付を求める	例) 特定の日付の○年後（カ月後、日後）を求める 特定の日付の○年前（カ月前、日前）を求める
YEAR()	YEAR(○○) ※○○ = 数値、日付、日時	○○に入力された年を求める	例) 西暦を和暦に返還する 特定の日付の○年後、○年前を計算する
MONTH()	MONTH(○○) ※○○ = 数値、日付、日時	○○に入力された月を求める	例) 特定の日付の○月後、○月前を計算する
DAY()	DAY(○○) ※○○ = 数値、日付、日時	○○に入力された日を求める	例) 特定の日付の○日後、○日前を計算する
DATE_FORMAT()	DATE_FORMAT(○○,フォーマット) ※○○ = 日付、時刻	○○を指定した「フォーマット」で表示する ※フォーマット一覧は次ページに記載	例) ○年△月×日を○/△/×の表記に変換 00:00を00時00分に変換
DATETIME_FORMAT()	DATETIME_FORMAT(○○,フォーマット,タイムゾーン) ※○○ = 日時	○○を指定した「フォーマット」と「タイムゾーン」で表示する ※フォーマット一覧は次ページに記載 ※タイムゾーンの考え方は2ページ後に記載	例) ○年△月×日 00:00を○/△/× 00時00分に変換 時差2時間30分後の日時に変換する

【参考】関数内のフォーマット表記

フォーマット	変換形式	変換前→変換後
"yyyy"	年(4桁、パディングあり)	2001年→2001 、 2019年→2019
"yy"	年(後ろ2桁、パディングあり)	2001年→01 、 2019年→19
"MM"	月(パディングあり)	1月→01 、 12月→12
"M"	月(パディングなし)	1月→1 、 12月→12
"dd"	日(パディングあり)	1日→01 、 31日→31
"d"	日(パディングなし)	1日→1 、 31日→31
"HH"	時(0~23、パディングあり)	0時→00 、 23時→23
"H"	時(0~23、パディングなし)	0時→0 、 23時→23
"hh"	時(1~12、パディングあり)	0時→12 、 1時→01 13時→01 、 23時→11
"h"	時(1~12、パディングなし)	0時→12 、 1時→1 13時→1 、 23時→11
"a"	'AM'または'PM'	0時~11時→AM 、 12時~23時 →PM
"mm"	分(パディングあり)	0分→00 、 59分→59
"m"	分(パディングなし)	0分→0 、 59分→59
"ss"	秒(パディングあり)	0秒→00 、 59秒→59
"s"	秒(パディングなし)	0秒→0 、 59秒→59

※変換を行う際の注意

フォーマット中のアルファベットが順に変換されます。

変換後の文字列にアルファベットを用いたい場合、「'」で囲ってください。

「'」で囲まれた部分は置換の対象外です。

例)

DATE_FORMAT({時刻}, "hour=h minute=m")

計算結果(時刻=03:05の場合):hour=3 minute=5

また、変換後の文字列に「'」を表示したい場合は、フォーマットに「"」と入力してください。

■タイムゾーンの表記

以下のいずれかの形式の文字

- "+hhmm" = 協定世界時から指定した時分だけ進んだ日時に補正する。
例) :"+0900" → 09時間00分協定世界時から進んだタイムゾーン
- "-hhmm" = 協定世界時から指定した時分だけ前の日時に補正する。
例) :"-0330" → 03時間30分協定世界時より前のタイムゾーン
- "local" = desknet's NEOの管理者設定の[言語及びタイムゾーン設定]で設定されたタイムゾーンで補正する。

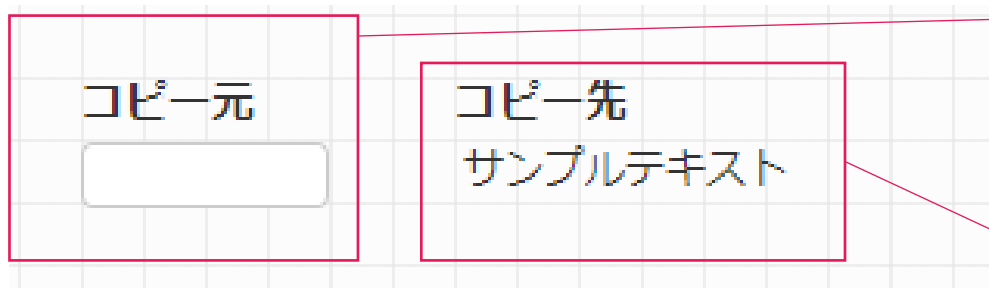
※タイムゾーンの表記を省略したときは「local」を入力したときと同じ動作をします。

自動計算部品活用例：値のコピー

概要

部品名「コピー元」に入力した部品の値を、自動計算部品「コピー先」へコピーする。

設定



自動計算に仕様出来る部品の内、文字、数値、日付、時刻または日時の部品を使用します。

■自動計算部品
表示形式：出力したい形式によって自由に選択
計算式：{{コピー元}}

結果

コピー元

テスト

コピー先

テスト

自動計算部品活用例：リレーション後の複写部品の編集を制限する

概要

リレーションした複写部品を編集できないようにします。参照部品が使用できない場合に有効です。

設定

お客様名

都道府県
サンプルテキスト

リレーション用のキー部品です。
お客様名をキーに「都道府県【複写】」部品を、
複写設定でリレーションしています。

都道府県 (複写元)

都道府県
サンプルテキスト

背面

前面

■文字（一行）
部品名：都道府県【複写】
設定：「お客様名」をキーに複写部品でリレーション

■四角形
スタイル：背景等に併せて、自由に選択

■自動計算部品
表示形式：出力したい形式によって自由に選択
計算式：{{都道府県【複写】}}

背面

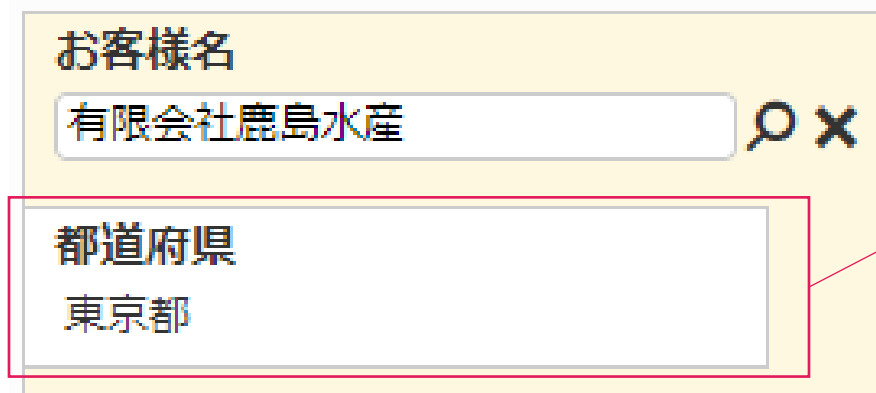
前面

自動計算部品活用例：リレーション後の複写部品の編集を制限する

概要

リレーションした複写部品を編集できないようにします。参照部品が使用できない場合に有効です。

結果



お客様名

有限会社鹿島水産 🔍 ✕

都道府県

東京都

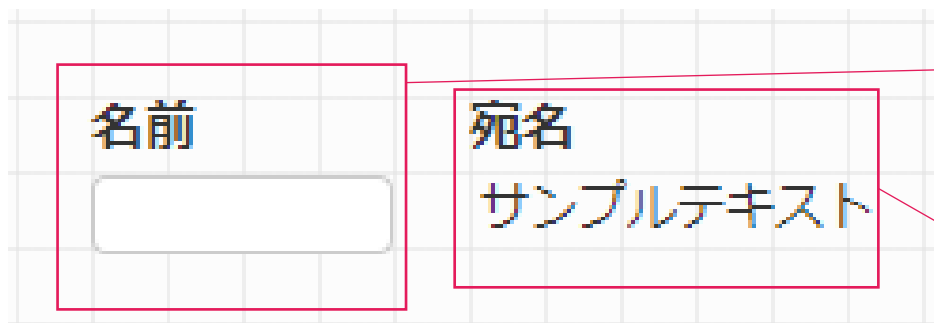
複写部品のリレーションしか使用していませんが、編集画面で都道府県が編集できないことが確認できます。

自動計算部品活用例：入力した文字に任意の文字列をくっつける

概要

部品名「名前」に入力した部品の値に、「様」という文字を付けて自動計算部品「宛名」へ表示する。

設定



自動計算に使用出来る部品の内、
文字の部品を使用します。

■自動計算部品
表示形式：文字
計算式： {{名前}}&"様"

結果

名前

山田太郎

宛名

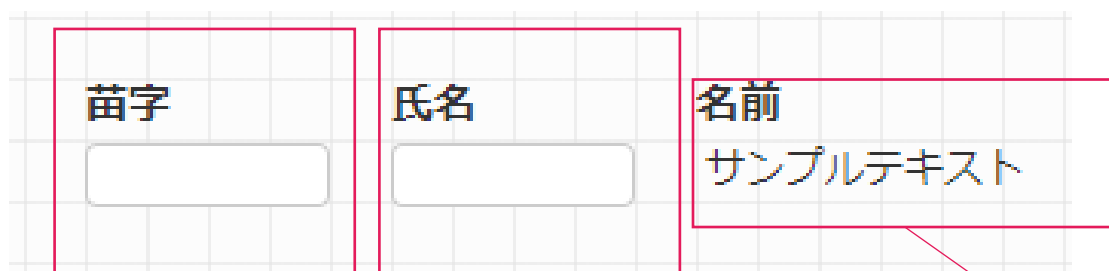
山田太郎様

自動計算部品活用例：二つの部品の値を一つの部品で表示する

概要

部品名「苗字」と部品名「氏名」に入力した文字を自動計算部品「名前」にて一つの文字列に統合する。

設定



自動計算に使用出来る部品の内、
文字の部品を使用します。

■自動計算部品
表示形式：文字
計算式： **{{苗字}}** & **{{氏名}}**

結果

苗字

山田

氏名

太郎

名前

山田太郎

自動計算部品活用例：文字部品と数値部品をくっつける

概要

部品名「和暦」と部品名「年」に入力した数値部品を自動計算部品「和暦表示」に結合して表示する。

設定

和暦
令和 ▼

年
年

和暦表示
サンプルテキスト

■自動計算部品
表示形式：文字
計算式：{{和暦}}&TEXT({{年}})&"年"

自動計算に使用出来る部品の内、文字タイプの部品を使用します。

自動計算に使用出来る部品の内、数値の部品を使用します。

結果

和暦
令和 ▼

年
1 年

和暦表示
令和1年

Point：TEXT関数

記述：TEXT({{数値}})

TEXT関数内の数値部品を、文字タイプに変換します。
これにより数値部品を&で結合できるようになります。

自動計算部品活用例：金額の合計を計算する

概要

「金額1」「金額2」「金額3」に入力された数値の合計を算出する。

設定

金額1 <input type="text"/> 円	合計金額 12,345円
金額2 <input type="text"/> 円	
金額3 <input type="text"/> 円	

■ 自動計算部品

表示形式：数値

計算式：SUM({{金額1}},{{金額2}},{{金額3}})

数値の部品を使用します。

結果

金額1 <input type="text"/> 100 円	合計金額 11,100円
金額2 <input type="text"/> 1000 円	
金額3 <input type="text"/> 10000 円	

Point：SUM関数

記述：SUM({{部品名}})

SUM関数を使用する場合は、

一つの部品に数値が未入力でも残りの値で計算を行います。

しかし、「+」記号を使用する場合は、

計算式中の値全てに値を入力しなければエラー表示になってしまいます。

※補足参照

自動計算部品活用例：金額の合計を計算する【補足】

補足

SUM関数と+記号の違い

設定

金額1	合計金額【SUM関数】	←SUM関数を利用
<input type="text" value=""/>	円 12,345円	SUM(/{金額1}/,/{金額2}/,/{金額3}/)
金額2	合計金額【+記号】	←「+」記号を利用
<input type="text" value=""/>	円 12,345円	{金額1}+{金額2}+{金額3}
金額3		
<input type="text" value=""/>	円	

結果

金額1	合計金額【SUM関数】
<input type="text" value="100"/>	円 11,100円
金額2	合計金額【+記号】
<input type="text" value="1000"/>	円 11,100円
金額3	
<input type="text" value="10000"/>	円

金額1	合計金額【SUM関数】
<input type="text" value="100"/>	円 1,100円
金額2	合計金額【+記号】
<input type="text" value="1000"/>	円 1,100円
金額3	
<input type="text" value="0"/>	円

金額1	合計金額【SUM関数】
<input type="text" value="100"/>	円 1,100円
金額2	合計金額【+記号】
<input type="text" value="1000"/>	円 #N/A!
金額3	
<input type="text" value=""/>	円

自動計算部品活用例：ラジオボタン等で選択したスコアの合計を算出する

概要

ラジオボタン等で選択形式にしているスコアの合計を数値で算出する。

設定

機能評価	
①参加意欲	<input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
②規則・規程	<input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
③協調性	<input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
④知識・技能	<input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
⑤理解・分析・判断力	<input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
⑥工夫・企画・調整力	<input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
⑦応対・折衝・調整力	<input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
⑧意欲・推進・完成力	<input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
⑨影響・指導・調整力	<input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
合計	12345
平均(合計÷9)	12345

■ ラジオボタン
部品名：それぞれ「①」～「⑨」
選択肢：1,2,3,4,5

■ 自動計算部品
表示形式：数値
計算式：
 $VALUE(\{\{①\}\}) + VALUE(\{\{②\}\}) + VALUE(\{\{③\}\}) + VALUE(\{\{④\}\}) + VALUE(\{\{⑤\}\})$
 $+ VALUE(\{\{⑥\}\}) + VALUE(\{\{⑦\}\}) + VALUE(\{\{⑧\}\}) + VALUE(\{\{⑨\}\})$

■ 自動計算部品
表示形式：数値
計算式： $ROUND(\{\{合計\}\}/9,2)$

自動計算部品活用例：ラジオボタン等で選択したスコアの合計を算出する

概要

ラジオボタン等で選択形式にしているスコアの合計を数値で算出する。

結果

職能評価	
①参加意識	(*) <input checked="" type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
②規則・規律	(*) <input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input checked="" type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
③協調性	(*) <input type="radio"/> 5 <input checked="" type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
④知識・技能	(*) <input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input checked="" type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
⑤理解・分析・判断力	(*) <input checked="" type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
⑥工夫・企画・開発力	(*) <input type="radio"/> 5 <input checked="" type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
⑦応対・折衝・調整力	(*) <input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input checked="" type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
⑧意欲・推進・完遂力	(*) <input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input checked="" type="radio"/> 1
⑨影響・指導・統率力	(*) <input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input checked="" type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1
合計	29
平均(合計÷9)	3.22

自動計算部品活用例：入力内容によってステータスを変化させる

概要

「大項目」部品に「来所」もしくは「診断」と入力された際に、自動計算部品「来所診断」に「あり」と表示される。

設定

大項目		🔍 X
中項目		
小項目		
小項目 (主訴2)		
来所診断	サブ...	←大項目により判定
予備1		

リレーションにて項目を選択

■ 自動計算部品
表示形式：文字
計算式：IF({{大項目}}="来所" OR {{大項目}}="診断","あり","なし")

結果

大項目	来所	🔍 X
中項目	報告	
小項目	004対人	
小項目 (主訴2)		
来所診断	あり	←大項目により判定

大項目	診断	🔍 X
中項目	診断	
小項目		
小項目 (主訴2)		
来所診断	あり	←大項目により判定

大項目	連携支援	🔍 X
中項目	ケース連携	
小項目	管理表転記	
小項目 (主訴2)		
来所診断	なし	←大項目により判定

自動計算部品活用例：日付の部品への入力の有無でフラグ管理を行う

概要

「受注日」部品に日付の入力がある場合は売買済み、入力がない場合は在庫のステータスを表示する

設定

受注日 <input type="text"/>	物品状態 サンプルテ...
-----------------------------	------------------

日付の部品を使用します。

■自動計算部品
表示形式：文字
計算式：IF(ISBLANK(受注日),"在庫","売買済み")

結果

受注日 <input type="text"/>	物品状態 在庫	受注日 2019/08/06	物品状態 売買済み
-----------------------------	------------	-------------------	--------------

Point : ISBLANK関数

記述：ISBLANK(部品名)

ISBLANK関数内の部品の値の有無を判断します。
値が無い場合は真値を返すので注意しましょう。

自動計算部品活用例：日付の部品への入力の有無でフラグ管理を行う【補足】

補足

日付部品のフラグ管理にて、空白を意味する「'''」を用いることは出来ないので注意が必要です。

設定

受注日 <input type="text"/>	物品状態 サンプルテ...
-----------------------------	------------------

日付の部品を使用します。

■ 自動計算部品
表示形式：文字
計算式：IF(受注日="", "在庫", "売買済み")

結果

日付入力無しの場合は「'''」扱いではない

受注日 <input type="text"/>	物品状態 在庫	IF(ISBLANK(受注日), "在庫", "売買済み")
	物品状態【間違い】	IF(受注日="", "在庫", "売買済み")

日付入力時のフラグは動作する

受注日 <input type="text" value="2019/10/10"/>	物品状態 売買済み	IF(ISBLANK(受注日), "在庫", "売買済み")
	物品状態【間違い】 売買済み	IF(受注日="", "在庫", "売買済み")

自動計算部品活用例：入力した日付に特定の日数、月数、年数を足す

概要

「入院日」部品に入力した日付の10日後の日付を自動で出力する。

設定



日付の部品を使用します。

■ 自動計算部品

表示形式：日付

計算式： `DATE(YEAR({{入院日}}),MONTH({{入院日}}),DAY({{入院日}})+10)`

結果

入院日	入院後手続き期限
2019/11/01	2019年11月11日(月)

Point：DATE関数

記述：DATE(年,月,日)

DATE関数は年月日をコンマ区切りの**数値で入力**することで、**数値を日付に変換する関数**です。

YEAR関数、MONTH関数、DAY関数は**自身の()内の日付を、それぞれ年、月、日を数値で抽出する関数**です。

今回の場合は、DATE(2019,11,1+10)に一度変換された後、2019年11月11日という表示に2段階で変換を行っています。

自動計算部品活用例：特定の日付を基準に1週間分の日付を自動算出する

概要

各週月曜日の日付を「週始め」部品に入力することで、月～日曜日までの日付が自動算出される。

設定

日付の部品を使用します。
名称：週始め

■ 自動計算部品
名称：月曜日日付
表示形式：日付
計算式： $\{\{\text{週始め}\}\}$

■ 自動計算部品
名称：火曜日日付
表示形式：日付
計算式： $\{\{\text{月曜日日付}\}\} + 60 * 60 * 24$

■ 自動計算部品
名称：水曜日日付
表示形式：日付
計算式： $\{\{\text{火曜日日付}\}\} + 60 * 60 * 24$

⋮

営業業務週報

氏名(*) 選択 サンプル氏名 ×

週始めの月曜日

営業客先等		
2019年11月28日(…)	(AM)	
	(PM)	
2019年11月28日(…)	(AM)	
	(PM)	
2019年11月28日(…)	(AM)	
	(PM)	

⋮

自動計算部品活用例：特定の日付を基準に1週間分の日付を自動算出する

概要

各週月曜日の日付を「週始め」部品に入力することで、月～日曜日までの日付が自動算出される。

結果

		営業客先等
2019年11月4日(月)	[AM]	
	[PM]	
2019年11月5日(火)	[AM]	
	[PM]	
2019年11月6日(水)	[AM]	
	[PM]	
2019年11月7日(木)	[AM]	
	[PM]	
2019年11月8日(金)	[AM]	
	[PM]	
2019年11月9日(土)	[AM]	
	[PM]	
2019年11月10日(日)	[AM]	
	[PM]	

Point : 日付の計算

DATE関数を用いて日付を計算することも可能です。

例) $DATE(YEAR(\{\{\text{月曜日日付}\}\}), MONTH(\{\{\text{月曜日日付}\}\}), DAY(\{\{\text{月曜日日付}\}\}) + 1)$

一方で、**日付の部品に直接数値を足し引きすることでも日付の計算が可能です。**

【仕様】

日付、時刻、日時は、それぞれ以下の数値と同様の扱いとなります。

- ・日付：1970年1月1日からの経過日数を**秒に変換した数値**
- ・時刻：0時0分0秒からの**経過秒数**
- ・日時：協定世界時の1970年1月1日0時0分0秒からの**経過秒数**

上記仕様より、日付部品の日付を1日経過させるためには、

$$1日 = 24時間 \times 60分/時 \times 60秒/分 = 86,400秒$$

を足すことでも実現可能です。

例) $\{\{\text{月曜日日付}\}\} + 60 * 60 * 24$

部品を複写して再利用する際の変更箇所を少なくしたり、自動計算の式を複雑にたくない場合や、数値化した時間をROUND関数などを用いて15分刻みに変換する場合に、数値を用いた計算方法は役に立ちます。

自動計算部品活用例：数字で入力した年齢を集計用に部類分けされた形式に変換する

概要

「年齢」部品へ数値を入力すると、自動計算部品「年代」にて○代前半（後半）という表示に切り替わる

設定

数値の部品を使用します。

年齢 <input type="text"/>	年代判定 12345
	前後半区分 サンプル...
	年代 サンプル...

■自動計算部品

表示形式：数値

計算式：`ROUNDDOWN({{年齢}}/10,0)*10`

意味：「年齢」に入力された数値を10の位表示に変換する

■自動計算部品

表示形式：文字

計算式：`IF(({{年齢}}-{{年代判定}})>=5,"代後半","代前半")`

意味：「年齢」の数値の1の位が5以上か以下か判定する

■自動計算部品

表示形式：文字

計算式：`TEXT({{年代判定}})&{{前後半区分}}`

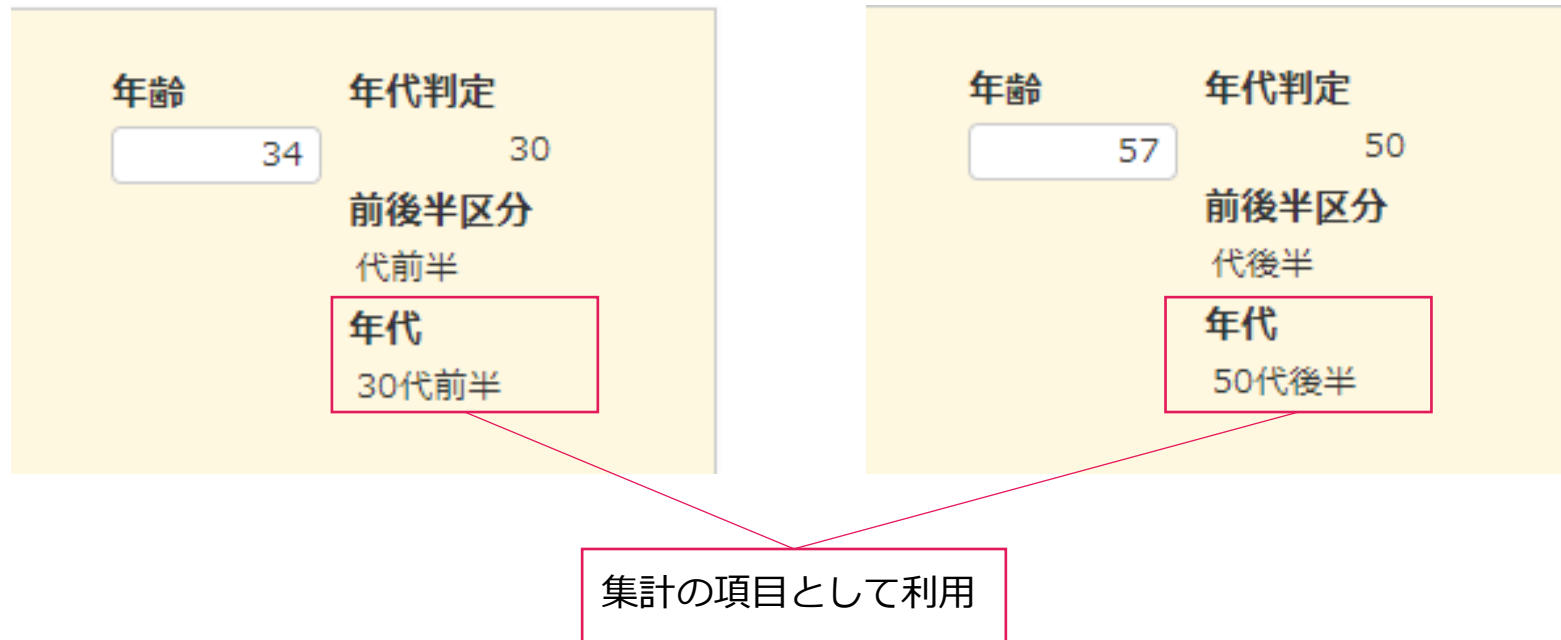
意味：「年代判定」と「前後半区分」を結合

自動計算部品活用例：数字で入力した年齢を集計用に部類分けされた形式に変換する

概要

「年齢」部品へ数値を入力すると、自動計算部品「年代」にて○代前半（後半）という表示に切り替わる

結果



自動計算部品活用例：生年月日の計算を行う

概要

「受付日時」で受付を行った時点での利用者の年齢を自動計算部品「年齢」で算出する。

設定

受付担当者	選択	サンプル氏名
受付日時	2019/12/05	08:56
利用者ID		
利用者名	サンプルテキスト	
所属校		学
生年月日		
年齢	12345歳	

日付の部品を使用します。

■ 自動計算部品
表示形式：数値
計算式： $YEAR(\{\{受付日時\}\}) - IF(\{\{受付日時\}\} > DATE(YEAR(\{\{受付日時\}\}), MONTH(\{\{生年月日\}\}), DAY(\{\{生年月日\}\})), YEAR(\{\{生年月日\}\}), YEAR(\{\{生年月日\}\}) + 1)$

結果

受付担当者	選択	木村雄太
受付日時	2019/12/05	09:12
利用者ID	2019000000001	
利用者名	田中良太	
所属校		
生年月日	2015/05/19	
年齢	4歳	

受付担当者	選択	木村雄太
受付日時	2019/12/05	09:21
利用者ID	2019000000001	
利用者名	田中良太	
所属校		学年
生年月日	2015/12/05	
年齢	4歳	

受付担当者	選択	木村雄太
受付日時	2019/12/04	09:21
利用者ID	2019000000001	
利用者名	田中良太	
所属校		
生年月日	2015/12/05	
年齢	3歳	

自動計算部品活用例：生年月日の計算を行う【補足】

自動計算の式の解説

※受付日時は2019年12月4日、生年月日は2015年12月5日だと仮定します（受付日時時点で3歳）。

■条件式

$\text{YEAR}(\{\{\text{受付日時}\}\}) - \text{IF}(\{\{\text{受付日時}\} > \text{DATE}(\text{YEAR}(\{\{\text{受付日時}\}\}), \text{MONTH}(\{\{\text{生年月日}\}\}), \text{DAY}(\{\{\text{生年月日}\}\}\}), \text{YEAR}(\{\{\text{生年月日}\}\}), \text{YEAR}(\{\{\text{生年月日}\}\}) + 1)$

■式の簡略化

→ $\text{YEAR}(\{\{\text{受付日時}\}\}) - \text{IF}(\text{条件式})$ 意味：もし〇〇ならXを、違うならYを受付日時の年から引く。

→ $2019 - \text{IF}(\text{条件式})$ 意味：もし〇〇ならXを、違うならYを2019から引く。

■条件式の内容

$\{\{\text{受付日時}\}\} > \text{DATE}(\text{YEAR}(\{\{\text{受付日時}\}\}), \text{MONTH}(\{\{\text{生年月日}\}\}), \text{DAY}(\{\{\text{生年月日}\}\}\}), \text{YEAR}(\{\{\text{生年月日}\}\}), \text{YEAR}(\{\{\text{生年月日}\}\}) + 1$

ここで、条件式を先ほどの意味に当てはめて考えると・・・

〇〇 → $\{\{\text{受付日時}\}\} > \text{DATE}(\text{YEAR}(\{\{\text{受付日時}\}\}), \text{MONTH}(\{\{\text{生年月日}\}\}), \text{DAY}(\{\{\text{生年月日}\}\}\}))$

X → $\text{YEAR}(\{\{\text{生年月日}\}\})$

Y → $\text{YEAR}(\{\{\text{生年月日}\}\}) + 1$

〇〇 → 2019/12/4 が 受付日時の年/生年月日の月/生年月日の日 より大きいなら

→ 2019/12/4 が 2019/12/5 より大きいなら

X → 2015

Y → $2015 + 1 = 2016$

すなわち、

もし2019/12/4 が 2019/12/5 より大きいなら2015を、違うなら2016を2019から引く

結果、 $2019 - 2016 = 3$ 歳が表示されます。

今年の12/5を超えているか、超えていないかを判定しているということ。

自動計算部品活用例：生年月日から学年を割り出す

概要

「年齢」部品の年齢から自動計算部品「学年区分」にて受付時の学年を自動表示させる。

設定1

数値の部品を使用します。
部品名：基準月
初期値：4

数値の部品を使用します。
部品名：年少
初期値：3

：

■ 自動計算部品
部品名：基準月年齢補正
表示形式：数値
計算式： $IF(MONTH(\{\{生年月日\}\}) < \{\{基準月\}\}, 0, IF(MONTH(\{\{生年月日\}\}) = \{\{基準月\}\} AND DAY(\{\{生年月日\}\}) = 1, 0, 1))$

■ 自動計算部品
部品名：高卒以上フラグ
表示形式：数値
計算式： $IF(\{\{年齢\}\} - \{\{基準月年齢補正\}\} \geq 18, 1, 0)$

基準月	4月	12345	学年区分フラグ
年少	3歳	12345	12345
年中	4歳	12345	
年長	5歳	12345	
小1	6歳	12345	
小2	7歳	12345	
小3	8歳	12345	
小4	9歳	12345	
小5	10歳	12345	
小6	11歳	12345	
中1	12歳	12345	
中2	13歳	12345	
中3	14歳	12345	
高1	15歳	12345	
高2	16歳	12345	
高3	17歳	12345	

■ 自動計算部品
部品名：学年区分フラグ
表示形式：数値
計算式： $SUM(\{\{年少フラグ\}\}, \{\{年中フラグ\}\}, \{\{年長フラグ\}\}, \{\{小1フラグ\}\}, \{\{小2フラグ\}\}, \{\{小3フラグ\}\}, \{\{小4フラグ\}\}, \{\{小5フラグ\}\}, \{\{小6フラグ\}\}, \{\{中1フラグ\}\}, \{\{中2フラグ\}\}, \{\{中3フラグ\}\}, \{\{高1フラグ\}\}, \{\{高2フラグ\}\}, \{\{高3フラグ\}\}, \{\{高卒以上フラグ\}\})$

■ 自動計算部品
部品名：小1フラグ
表示形式：数値
計算式： $IF(\{\{年齢\}\} - \{\{基準月年齢補正\}\} \geq \{\{小1\}\}, 1, 0)$

自動計算部品活用例：生年月日から学年を割り出す

概要

「年齢」部品の年齢から自動計算部品「学年区分」にて受付時の学年を自動表示させる。

各自動計算部品の意味1

■自動計算部品
部品名：基準月年齢補正
意味：生年月日が1～3月に該当するか判定し、早生まれかどうかを0と1で表現しています。
その後、4月以降の生年月日でかつそれが4/1であれば早生まれに該当することを判定しています。
早生まれであれば0、違う場合は1を返します。

基準月	4月	12345
年少	3歳	12345
年中	4歳	12345
年長	5歳	12345
小1	6歳	12345
小2	7歳	12345
小3	8歳	12345
小4	9歳	12345
小5	10歳	12345
小6	11歳	12345
中1	12歳	12345
中2	13歳	12345
中3	14歳	12345
高1	15歳	12345
高2	16歳	12345
高3	17歳	12345

学年区分フラグ
12345

■自動計算部品
部品名：学年区分フラグ
意味：「年少フラグ」部品～「高卒以上フラグ」部品までの数値（0か1）を全て足します。

■自動計算部品
部品名：高卒以上フラグ
意味：「年齢」部品から「基準月年齢補正」部品の数値を引いています。
この時、早生まれでない方は1歳実年齢より小さい年齢が計算されます。
上記の値が18以上であれば1を、そうでなければ0を返します。

■自動計算部品
部品名：小1フラグ
意味：「年齢」部品から「基準月年齢補正」部品の数値を引いています。
この時、早生まれでない方は1歳実年齢より小さい年齢が計算されます。
上記の値が小1部品（値は6）以上であれば1を、そうでなければ0を返します。

自動計算部品活用例：生年月日から学年を割り出す

概要

「年齢」部品の年齢から自動計算部品「学年区分」にて受付時の学年を自動表示させる。

設定2

■ 利用者情報

受付担当者	選択	サンプル氏名 ×
受付日時	2019/12/09	16:24
利用者ID		🔍 ×
利用者名	サンプルテキスト	
所属校	学年区分	サンプル...
生年月日		
年齢	12345歳	

■ 自動計算部品
表示形式：文字
部品名：学年区分
計算式：IFS({{学年区分フラグ}}>15,"高卒以上",{{学年区分フラグ}}=15,"高3",{{学年区分フラグ}}=14,"高2",{{学年区分フラグ}}=13,"高1",{{学年区分フラグ}}=12,"中3",{{学年区分フラグ}}=11,"中2",{{学年区分フラグ}}=10,"中1",{{学年区分フラグ}}=9,"小6",{{学年区分フラグ}}=8,"小5",{{学年区分フラグ}}=7,"小4",{{学年区分フラグ}}=6,"小3",{{学年区分フラグ}}=5,"小2",{{学年区分フラグ}}=4,"小1",{{学年区分フラグ}}=3,"年長",{{学年区分フラグ}}=2,"年中",{{学年区分フラグ}}=1,"年少",{{学年区分フラグ}}=0,"未満")

自動計算部品活用例：生年月日から学年を割り出す

概要

「年齢」部品の年齢から自動計算部品「学年区分」にて受付時の学年を自動表示させる。

各自動計算部品の意味2

■ 利用者情報	
受付担当者	選択 ▼ サンプル氏名 ×
受付日時	2019/12/09 16:24
利用者ID	検索 ×
利用者名	サンプルテキスト
所属校	学年区分 サンプル...
生年月日	
年齢	12345歳

■ 自動計算部品

部品名：学年区分

意味：学年区分フラグの数値によって表示させる文字を変化させます。

各フラグでは該当する年齢の学年までは全て1が、それ以外は全て0が表示されるように設定されているため、各フラグの合計数値によって学年の判定が可能になっています。

自動計算部品活用例：生年月日から学年を割り出す

概要

「年齢」部品の年齢から自動計算部品「学年区分」にて受付時の学年を自動表示させる。

結果1

■ 利用者情報

受付担当者	木村雄太
受付日時	2018年2月16日(金) 10:00
利用者ID	2019000000002
利用者名	吉田涼子
所属校	名古屋保育園
生年月日	2012年9月9日(日)
年齢	5歳
学年区分	年中

基準月	4月	1	学年区分フラグ
年少	3歳	1	1
年中	4歳	1	2
年長	5歳	0	
小1	6歳	0	
小2	7歳	0	
小3	8歳	0	
小4	9歳	0	
小5	10歳	0	
小6	11歳	0	
中1	12歳	0	
中2	13歳	0	
中3	14歳	0	
高1	15歳	0	
高2	16歳	0	
高3	17歳	0	

早生まれではないので、
各フラグでは $5-1=4$ 歳として判定がかかります。

自動計算部品活用例：生年月日から学年を割り出す

概要

「年齢」部品の年齢から自動計算部品「学年区分」にて受付時の学年を自動表示させる。

結果2

■ 利用者情報

受付担当者	清水伊織
受付日時	2019年11月8日(金) 09:00
利用者ID	2019000000003
利用者名	大村太郎
所属校	千種小学校
生年月日	2009年3月10日(火)
年齢	10歳

学年区分 小5

基準月	4月	0	学年区分フラグ
年少	3歳	1	8
年中	4歳	1	
年長	5歳	1	
小1	6歳	1	
小2	7歳	1	
小3	8歳	1	
小4	9歳	1	
小5	10歳	1	
小6	11歳	0	
中1	12歳	0	
中2	13歳	0	
中3	14歳	0	
高1	15歳	0	
高2	16歳	0	
高3	17歳	0	

早生まれなので、各フラグでは10-0=10歳として判定がかかります。

自動計算部品活用例：生年月日から学年を割り出す【おまけ】

複雑なアプリを作る際のコツ

一つの自動計算部品に全ての式を入れるのではなく、**フラグ等を分けて配置しましょう！**
また、検証作業が必要な場合、**式に直接数値を入力せずに数値部品へ初期値設定すると検証が楽な場合があります。**
数値部品を式に組み込むことで、数値の変更が簡単になります。
また、消費税などの数値変更される可能性がある数値が組み込まれている式についても、数値として消費税を式に入力するのではなく、数値部品にしておくことで変更が容易になり、かつ、過去のレコードでは税率8%、新しいレコードからは税率10%での計算を保存できます。

早生まれかどうかの判定

数値を式に直接入力せず、部品にすることで検証作業時の数値変更が容易になる

基準月	4月	12345	学年区分フラグ
年少	3歳	12345	12345
年中	4歳	12345	
年長	5歳	12345	
小1	6歳	12345	
小2	7歳	12345	
小3	8歳	12345	
小4	9歳	12345	
小5	10歳	12345	
小6	11歳	12345	
中1	12歳	12345	
中2	13歳	12345	
中3	14歳	12345	
高1	15歳	12345	
高2	16歳	12345	
高3	17歳	12345	
		12345	

学年のフラグを集計し、文字へ変換するための判定

基準月に対する学年のフラグ

自動計算部品活用例：表部品内のレコードの特定項目のみ足し算する

概要

表部品内のプルダウンで選択した「勤務状況」毎の日数をカウントする

設定

就業日数	休日日数	休出日
12345日	12345日	12

勤務状況集計	
日付	勤務状況
2020/03/13	(未選択)
2020/03/13	(未選択)
2020/03/13	(未選択)

■ 自動計算部品
表示形式：数値
計算式：COUNTIF({{勤務状況集計}}.{{勤務状況}},{{勤務状況集計}}.{{勤務状況}}="就業")
意味：表部品内の「勤務状況」が「就業」になっている「勤務状況」のレコード数を求める。

■ 自動計算部品
表示形式：数値
計算式：COUNTIF({{勤務状況集計}}.{{勤務状況}},{{勤務状況集計}}.{{勤務状況}}="休日")
意味：表部品内の「勤務状況」が「休日」になっている「勤務状況」のレコード数を求める。

プルダウン部品を使用します。

自動計算部品活用例：表部品内のレコードの特定項目のみ足し算する

概要

表部品内のプルダウンで選択した「勤務状況」毎の日数をカウントする

結果

就業日数	休日日数	休出
3日	2日	

勤務状況集計	
日付	勤務状況
2019/08/01	就業
2019/08/02	就業
2019/08/03	休日
2019/08/04	休日
2019/08/05	就業
2019/08/06	遅刻

自動計算部品活用例：表部品内の最新の日付を出力する

概要

表部品内の日付部品「作業日」の中で最新作業日だけを抽出して表示する。

設定

最新作業日	累計作業時間	最新作業時間
2019年12月6日(金)	12345H	12345H

作業履歴			
作業日	作業時間	最新作業時間判定	
	H	12345	+ X
	H	12345	+ X
	H	12345	+ X

■ 自動計算部品
表示形式：日付
計算式：MAX({{作業履歴}},{{作業日}})
意味：表部品内の「作業日」の最大値を求める。

日付関係の部品を使用します。

結果

最新作業日	累計作業時間	累
2019年11月6日(水)	10H	

作業履歴		
作業日	作業時間	リレーシ
2019/08/01	2H	
2019/09/11	5H	
2019/11/06	3H	

Point : MAX関数、MIN関数

記述：MAX(数値や日付)
MAX関数は()内のコンマ区切りの部品や値の集合の内、最も大きな値を返す関数です。
日付関係の部品は基準日（時間）からの「秒数」として数値化が可能なので、MAX関数やMIN関数の対象として指定可能です。

自動計算部品活用例：表部品内の特定の条件に一致する最新の日付を抽出する

概要

表部品内の日付部品「開始日」「終了日」の中で契約更新が無しのレコードの内、最も日付が新しい日付を抽出する。
ただし、契約更新が有りの際には事務センターの書類手続きによる更新フラグが立つまで更新有りのレコードの日付を、更新フラグが立った時点で未来も含めた最新の日付を抽出する。

設定

■ 自動計算部品
表示形式：日付
計算式：IFS(更新確認【判定】="更新待ち", MAXIF(更新日管理, 開始日, 更新日管理, 更新判断)=1), 更新確認【判定】="更新不要", MAX(更新日管理, 開始日))

※終了日もほぼ同様の設定のため割愛

The screenshot shows a form with several fields and a table. At the top, there are fields for '開始日' (Start Date) and '終了日' (End Date), both set to '2020年3月13日(金)'. To the right is a field for '更新確認【判定】' (Update Confirmation [Judgment]) with the value 'サンプルテキスト'. Below this is a table titled '更新日管理' (Update Date Management) with columns for '開始日', '終了日', '更新有無' (Update Status), '事務センター更新フラグ' (Business Center Update Flag), and '更新判断' (Update Judgment). The table contains three rows, each with a radio button for '更新有無' (set to '有り'), a dropdown for '事務センター更新フラグ' (set to '(未選択)'), and a numeric value for '更新判断' (12345). There are also '+' and 'x' icons next to each row.

■ 自動計算部品
表示形式：文字
計算式：IF(SUM(更新日管理, 更新判断)=1, "更新待ち", "更新不要")

■ 自動計算部品
表示形式：数値
計算式：IF(更新日管理, 更新有無)="有り" AND 更新日管理, 事務センター更新フラグ <> "更新済み", 1, 0)

それぞれ日付部品、ラジオボタン、プルダウンを使用します。

自動計算部品活用例：表部品内の特定の条件に一致する最新の日付を抽出する

概要

表部品内の日付部品「開始日」「終了日」の中で契約更新が無しのレコードの内、最も日付が新しい日付を抽出する。
ただし、契約更新が有りの際には事務センターの書類手続きによる更新フラグが立つまで更新有りのレコードの日付を、更新フラグが立った時点で未来も含めた最新の日付を抽出する。

各自動計算部品の意味

■ 自動計算部品

部品名：開始日

意味：もし「更新確認【判定】」が更新待ちの場合、表部品中の「更新判断」が1のレコードの中の「開始日」が最も新しい日付を抽出する。もし「更新確認【判定】」が更新不要の場合、表部品中の「開始日」が最も新しい日付を抽出する。

開始日	終了日	更新確認【判定】
2020年3月13日(金)	2020年3月13日(金)	サンプルテキスト

開始日	終了日	更新有無	事務センター更新フラグ	更新判断
		<input type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(未選択)	12345
		<input type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(未選択)	12345
		<input type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	(未選択)	12345

■ 自動計算部品
部品名：更新確認【判定】
意味：もし「更新判断」の合計が1の場合は更新待ちと、それ以外の場合は更新不要と表示する。

■ 自動計算部品
部品名：更新判断
意味：もし「更新有無」が有りで、かつ「事務センター更新フラグ」が更新済みでは無い場合は1を、それ以外の場合は0を出力する。

自動計算部品活用例：表部品内の特定の条件に一致する最新の日付を抽出する

概要

表部品内の日付部品「開始日」「終了日」の中で契約更新が無しのレコードの内、最も日付が新しい日付を抽出する。
ただし、契約更新が有りの際には事務センターの書類手続きによる更新フラグが立つまで更新有りのレコードの日付を、更新フラグが立った時点で未来も含めた最新の日付を抽出する。

結果1

更新日管理

開始日	終了日	更新有無	事務センター更新フラグ	更新判断
		無し		0
2020/03/01	2020/03/31	無し		0

更新確認【判定】
更新不要

自動計算部品活用例：表部品内の特定の条件に一致する最新の日付を抽出する

概要

表部品内の日付部品「開始日」「終了日」の中で契約更新が無しのレコードの内、最も日付が新しい日付を抽出する。
ただし、契約更新が有りの際には事務センターの書類手続きによる更新フラグが立つまで更新有りのレコードの日付を、更新フラグが立った時点で未来も含めた最新の日付を抽出する。

結果2

更新日管理

開始日	終了日	更新有無	事務センター更新フラグ	更新判断
2020/04/01	2020/04/31	無し		0
2020/03/01	2020/03/31	有り		1

更新確認【判定】
更新待ち

① ② ③ ④

自動計算部品活用例：表部品内の特定の条件に一致する最新の日付を抽出する

概要

表部品内の日付部品「開始日」「終了日」の中で契約更新が無しのレコードの内、最も日付が新しい日付を抽出する。
ただし、契約更新が有りの際には事務センターの書類手続きによる更新フラグが立つまで更新有りのレコードの日付を、更新フラグが立った時点で未来も含めた最新の日付を抽出する。

結果3

開始日	終了日	更新確認【判定】
2020年4月1日(水)	2020年4月1日(水)	更新不要

開始日	終了日	更新有無	事務センター更新フラグ	更新判断
2020/04/01	2020/04/30	無し		0
2020/03/01	2020/03/31	有り	更新済み	0

自動計算部品活用例：表部品内の特定の条件に一致する最新の日付を抽出する

概要

表部品内の日付部品「開始日」「終了日」の中で契約更新が無しのレコードの内、最も日付が新しい日付を抽出する。
ただし、契約更新が有りの際には事務センターの書類手続きによる更新フラグが立つまで更新有りのレコードの日付を、更新フラグが立った時点で未来も含めた最新の日付を抽出する。

結果4

更新日管理

開始日	終了日	更新有無	事務センター更新フラグ	更新判断
2020/05/01	2020/05/31	無し		0
2020/04/01	2020/04/30	有り		1
2020/03/01	2020/03/31	有り	更新済み	0

更新確認【判定】
更新待ち

自動計算部品活用例：表部品内の特定の条件に一致する最新の日付を抽出する

概要

表部品内の日付部品「開始日」「終了日」の中で契約更新が無しのレコードの内、最も日付が新しい日付を抽出する。
ただし、契約更新が有りの際には事務センターの書類手続きによる更新フラグが立つまで更新有りのレコードの日付を、更新フラグが立った時点で未来も含めた最新の日付を抽出する。

結果5

開始日	終了日	更新確認【判定】
2020年4月1日(水)	2020年4月1日(水)	更新待ち

更新日管理

開始日	終了日	更新有無	事務センター更新フラグ	更新判断
2020/05/01	2020/05/31	無し		0
2020/04/01	2020/04/30	有り		1
2020/03/01	2020/03/31	有り	更新済み	0

集計の項目や一覧画面へ利用